

討論4「テレワーク環境整備と ワーク・ライフ・バランス」 へのコメント

角谷快彦

日本学会協議連携会員

広島大学大学院人間社会科学研究科教授

論文の概要と貢献

新型コロナウイルス対策に伴う働き方の変化が、どのような人にテレワークを普及させ、どのような人の生産性にどのような影響を与えたかをJILPT調査を用いて検証。

- **仕事の評価基準が明確である労働者にテレワーク普及の傾向**
 - **緊急事態宣言の発令でテレワークの利用を強いられた層は宣言解除後もテレワークの活用を継続の傾向**
 - **日本の伝統的な雇用制度「メンバーシップ型」の人事管理制度は必ずしもテレワークを阻害せず**
 - **テレワークの利用環境が悪い労働者はテレワークに従事しない傾向**
 - **テレワークは月収に影響を与えない一方で、労働時間は短くなる可能性**
- テレワークの視点から今後のワーク・ライフ・バランス研究の発展に重要な貢献**

論文の位置づけ

1 個人調査

I 調査方法／調査対象／調査結果

- ▶ パネル方式による追跡調査。
 - ▶ 調査対象はインターネット調査会社（株式会社 インテージリサーチ）の登録モニター会員（国内在住）のうち、2020年4月1日時点で20歳以上64歳以下の、
 1. 民間企業で働く雇用者
 2. フリーランス（雇人のない、店主以外の自営業主（農林漁業除く）
- なお、2020年4月1日時点で上記の要件を満たしていれば、以降、調査時点迄に失職された方も含まれます。
- ▶ [各回の調査結果（一次集計）の記者発表資料はこちら](#)

II 調査実施期間／調査票

第1回	2020年05月18日（月曜）～05月27日（水曜）	調査票（PDF:430KB）
第2回	2020年08月01日（土曜）～08月07日（金曜）	調査票（PDF:472KB）
第3回	2020年12月12日（土曜）～12月17日（木曜）	調査票（PDF:525KB）
第4回	2021年03月12日（金曜）～03月18日（木曜）	調査票（PDF:577KB）
第5回	2021年06月24日（木曜）～06月30日（水曜）	調査票（PDF:705KB）

石井他(2020)：緊急事態宣言期間中にどのような労働者がテレワークに移行？
→テレワーク実施と高学歴・正社員、高収入、大企業、（キャリア支援などの）人材マネジメントの整備済の環境に因果の可能性

高見(2020)：緊急事態宣言からの在宅勤務日数の増加率と個人属性・産業・職種との関係
→情報通信業は維持、建設・サービス・技能・労務は↓の可能性

大竹・加藤(2021)：仕事の特性（定型的vs成果主義、ICT普及の影響、メンバーシップ型雇用）、労働者側のテレワーク環境、月収への影響等を加味

緊急事態宣言2020

対象	期間
千葉、神奈川、埼玉、東京	2020年4月7日-5月25日
大阪、兵庫	2020年4月7日-5月21日
福岡	2020年4月7日-5月14日
北海道	2020年4月16日-5月25日
京都	2020年4月16日-5月21日
茨城、石川、岐阜、愛知、宮城、山形、福島、青森、群馬、栃木、長野、新潟、山梨、静岡、秋田、富山、福井、岩手、滋賀、三重、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、徳島、愛媛、高知、佐賀、長崎、大分、鹿児島、熊本、宮崎、沖縄	2020年4月16日-5月14日



https://www.google.com/search?q=covid+19+by+country&oq=covid+19+by+country&aqs=chrome.69i59.5116j0j7&sourceid=chrome&ie=UTF-8#colocmid=/m/03_3d&coasync=0

新型コロナウイルスの感染拡大の雇用・労働面への影響に関するアンケート調査 (個人調査 企業調査)

当機構では組織横断的プロジェクトチームを立ち上げ、2020年4月以降、新型コロナウイルスの感染拡大の雇用・労働面への影響等を把握するため、同一の個人・企業を対象としたパネル方式での追跡調査をそれぞれ継続実施しています。

1 個人調査

I 調査方法／調査対象／調査結果

- ▶ パネル方式による追跡調査。
- ▶ 調査対象はインターネット調査会社（株式会社 インテージリサーチ）の登録モニター会員（国内在住）のうち、2020年4月1日時点で20歳以上64歳以下の、
 1. 民間企業で働く雇用者
 2. フリーランス（雇人のない、店主以外の自営業主（農林漁業除く）

なお、2020年4月1日時点で上記の要件を満たしていれば、以降、調査時点迄に失職された方も含まれます。

- ▶ [各回の調査結果（一次集計）の記者発表資料はこちら](#)

I 調査実施期間／調査票

- | | | |
|-----|----------------------------|---------------------------------|
| 第1回 | 2020年05月18日（月曜）～05月27日（水曜） | 調査票 (PDF:430KB) |
| 第2回 | 2020年08月01日（土曜）～08月07日（金曜） | 調査票 (PDF:472KB) |
| 第3回 | 2020年12月12日（土曜）～12月17日（木曜） | 調査票 (PDF:525KB) |
| 第4回 | 2021年03月12日（金曜）～03月18日（木曜） | 調査票 (PDF:577KB) |
| 第5回 | 2021年06月24日（木曜）～06月30日（水曜） | 調査票 (PDF:705KB) |

「新型コロナウイルス感染拡大の仕事や生活への影響に関する調査」

=

「新型コロナウイルス感染拡大の雇用・労働面への影響に関するアンケート調査（個人調査）」

コメント 1/2

- 推計手法および推計結果の解釈については妥当
- サンプルサイズがやや小さい→サンプリングバイアスの懸念あり、詳細な記述統計が必要+可能であればサンプリングウェイトの利用ができるとなお良い
- テレワークの月収への影響等については今後の研究でより長期の観察が必要
 - 個人業績がより反映されやすいボーナスへの影響は？
- テレワーク継続の有無が働き方のありよう(3回目調査Q39)にどのような影響を与えるかも分析するとおもしろいかも

コメント 2/2

- 別論文で良いので同じデータでテレワーク実施の有無のサブサンプル分析をしたらおもしろいのではないか。例えば、年齢・性別、地域ごと

サブサンプル分析で新たな知見？

(例：コロナ禍が孤独に与えた影響の年齢性別ごとのパネル分析：パンデミック1年後孤独推計値結果-パンデミック前の孤独推計値結果の要因分析)

VARIABLES	Model 1	Gender		Female * Age Group			
		Model 1 - Male	Model 1 - Female	Model 1 - Age <35	Model 1 - Age 35-49	Model 1 - Age 50-64	Model 1 - Age >=65
male	-0.295** (0.123)						
age2021	0.000234 (0.00458)	-0.00360 (0.00630)	0.00406 (0.00701)	0.00350 (0.0444)	-0.0485 (0.0314)	0.0659 (0.0416)	0.0212 (0.134)
spouse21	0.500*** (0.175)	0.633** (0.255)	0.504** (0.254)	-0.0135 (0.455)	0.699 (0.482)	1.322** (0.547)	-1.771 (1.127)
child	-0.0314 (0.127)	-0.171 (0.180)	0.151 (0.183)	0.382 (0.325)	0.344 (0.344)	-0.148 (0.383)	0.840 (1.312)
livealone21	0.354** (0.180)	0.277 (0.246)	0.490* (0.271)	0.452 (0.474)	1.133** (0.501)	0.243 (0.660)	-0.870 (1.196)
rural	-0.0624 (0.0978)	0.0229 (0.127)	-0.179 (0.156)	0.294 (0.302)	-0.238 (0.271)	-0.463 (0.322)	-1.128 (0.697)
educ	-0.0121 (0.0248)	-0.0181 (0.0311)	-0.00176 (0.0422)	-0.0777 (0.0804)	0.144* (0.0748)	-0.153* (0.0882)	0.190 (0.176)
fulltime21	-0.0397 (0.123)	-0.224 (0.185)	0.172 (0.170)	0.538* (0.316)	0.238 (0.313)	-0.135 (0.392)	-0.612 (0.981)
lhhinc21	0.164* (0.0879)	0.124 (0.122)	0.284** (0.141)	0.768** (0.318)	0.0997 (0.238)	0.0284 (0.219)	0.949 (0.582)
lhasset21	-0.0203 (0.0424)	0.0497 (0.0554)	-0.144*** (0.0679)	-0.491*** (0.160)	-0.0330 (0.111)	-0.184 (0.142)	-0.348 (0.318)
flavg	-0.112 (0.146)	-0.0891 (0.194)	-0.142 (0.227)	-0.171 (0.416)	-0.757* (0.393)	0.458 (0.483)	0.465 (1.135)
healthy21	0.0524 (0.0477)	0.0910 (0.0615)	-0.0162 (0.0777)	0.121 (0.140)	-0.305** (0.130)	0.137 (0.164)	-0.161 (0.305)
anxiety21	0.00273 (0.0494)	0.0628 (0.0658)	-0.0671 (0.0755)	0.0863 (0.134)	-0.200 (0.135)	-0.00826 (0.157)	-0.317 (0.360)
fsatis21	0.0658 (0.0548)	0.0557 (0.0735)	0.0827 (0.0829)	0.0399 (0.145)	0.120 (0.147)	0.247 (0.184)	0.0490 (0.429)
depress21	-0.0500 (0.0451)	-0.0347 (0.0605)	-0.0816 (0.0667)	-0.182 (0.122)	-0.152 (0.115)	-0.104 (0.135)	0.723** (0.286)
myopic21	-0.00713 (0.0484)	-0.0164 (0.0626)	0.00905 (0.0768)	-0.0598 (0.135)	0.178 (0.147)	0.118 (0.139)	0.237 (0.293)
Constant	-4.327*** (1.352)	-5.078*** (1.848)	-4.193** (2.075)	-6.056 (5.201)	-2.096 (3.637)	-2.769 (3.531)	-15.47 (13.69)
Observations	4,253	2,783	1,470	472	556	326	116
Log likelihood	-1533	-943.1	-582.9	-177.5	-198.1	-138.4	-34.03
Chi2 statistics	41.02	19.95	26.03	24.07	27.61	20.71	21.61
p-value	0.000551	0.174	0.0377	0.0639	0.0242	0.146	0.118

データセット：広島大学角谷研究室パネルデータ
2020wave-2021wave

まとめ

- 大竹・加藤(2021)論文はコロナ禍初年度におけるテレワークの普及の動きを捉え、**テレワークの視点から今後のワーク・ライフ・バランス研究の発展に重要な貢献**を果たした。
- 今後は、サブサンプル分析やテレワークの普及が労働意識や生産性に与える影響等へのさらなる考察が求められると思います。